

農作物生産情報 (令和8年6月)

気象

(令和8年5月21日発表 仙台管区気象台発表 東北地方1か月予報より)

期間の平均気温は高い確率が50%で、天気は数日の周期で変わる見込みである。降水量は、多い確率が40%である。日照時間は少ない確率が40%と予測されている。

水稲

きめ細かな水管理で生育促進に努めよう！

1 水管理

	適水温 (°C)
日最高	30~32
日最低	15~17
日較差	15

	水管理
基本	昼間止水・夜間かんがい
暖かい日	浅水→水温を上昇させる
寒い日	深水→保温する

分けつ（茎数の増加）の適水温は、日最高で30~32°C、日最低で15~17°C、日較差15°C前後である。

日平均水温が19°C以下になると分けつの発生が急激に少なくなるため、昼間止水・夜間かんがいを基本とし、暖かい日は浅水で水温を上昇させ、寒い日は深水で保温する。また、漏水防止に努め、掛け流しはしない。

水田にガスが発生し生育が不良の場合は、6月中旬頃に3~5日程度（田面に小さなヒビが入る程度）の落水管理を行う。

有効茎数（1株茎数で「青天の霹靂」は18本程度、その他の品種は20本程度）を確保し、6月末頃から平均気温が20°C以上で晴天が続くようであれば中干しを行う。中干しは田面に軽く亀裂が入る程度とする。

■ 水管理の目安

生育期	暖かい日	寒い日
分けつ期	3cm程度の浅水	5~6cm程度の深水
有効茎数確保後	中干し	5~6cm程度の深水

2 雑草防除

(1) 初期除草剤と中・後期除草剤の体系処理の場合

初期除草剤処理後の雑草の発生を見ながら中・後期除草剤を選択する。

除草剤の散布後は、除草効果の維持と水質汚染防止のため、散布後7日間は止水し、落水や掛け流しをしない。

(2) 一発剤を使用し、残草が見られた場合（以下は、除草剤の例）

雑草の種類	除草剤の例
広葉雑草（アゼナ・ホタルイ等）のみ	バサグラン液剤・粒剤・エアー1キロ粒剤
ノビエのみ	クリンチャー1キロ粒剤・E W 又はヒエクリーン1キロ粒剤 又はワンステージ1キロ粒剤
広葉雑草＋ノビエ	クリンチャーバスマE液剤 又はワイドアタックSC 又はワイドパワー粒剤 又はヒエクリーンバサグラン粒剤

注) 除草剤は使用基準を必ず守り、他の作物に飛散しないように注意する。

3 病害虫防除

(1) イネミズゾウムシ

移植前や移植時に防除をしなかった場合は、発生に応じて防除する。発生が多い場合は、6月上旬に水面施用剤を散布する。この時期の防除でイネドロオウムシも防除できる。

(2) 斑点米カメムシ類

カメムシの発生源となっている水田周辺の休耕田や、カメムシを誘引する畦畔の雑草（主にイネ科雑草）は、開花・結実する前に刈り取る。また、出穂間近の草刈りは、逆にカメムシを本田内に追い立てることになるので、出穂7日前までに終了する。

(3) 葉いもち

取り置き苗は、葉いもちの発生源となるので、補植が終わったら、直ちに処分する。

葉いもちは、早い年には6月下旬に発生が見られるので、ほ場をこまめにチェックし病斑が見られた場合には、航空防除まで待つのではなく、直ちに防除する。

復元田や、いもち病に弱い品種を作付けした場合は、葉いもちの発生が見られなくても、水面施用剤による予防防除を必ず行う。

水面施用剤は、6月20日前後から6月末までに湛水のまま施用する。施用後1週間は止水し、落水、掛け流しをしない。その間の入水は、水尻を止めたままで行う。

※「青天の霹靂」は、農薬の成分使用回数を地域慣行の1/2以内とすることが必須なので、農薬の使用に際しては成分数を確認する。

畑 作

大豆の雑草防除と中耕・培土をしっかりと行おう！
小麦の赤かび病の適期防除に努めよう！

◆大 豆◆

1 は 種

碎土が粗いと発芽率が劣るので、碎土はていねいに行う。

は種量は「おおすず」で7 kg/10a を基準とする。

は種直後の多雨は、出芽や初期生育の不良を招くので、気象情報に注意しながら作業する。

は種作業は6月10日頃までに終わるようにする。やむを得ず、は種が遅れる場合は畦幅や株間を詰めて、は種量を増やす。

2 雑草対策

(1) 土壌処理剤

土壌処理剤は、は種後速やかな散布が望ましい。土壌表面の水分が少ないと効果が劣り、また、出芽した雑草には効果がないので注意する。

(2) 茎葉処理剤

イネ科雑草用の茎葉処理剤は、薬剤により効果が異なるので発生状況に合わせて選択し、効果的に使用する。

広葉雑草に使用できる茎葉処理剤は大豆バサグラン液剤やアタックショット乳剤、パワーガイザー液剤がある。以下の注意点を確認のうえ使用する。また、薬剤により使用時期が異なるため注意する。

薬剤	薬害の助長を防ぐための注意点
大豆バサグラン液剤	<ul style="list-style-type: none">・高温時や大豆の生育が不良な場合は使用を避ける。・重複散布を避ける。
アタックショット乳剤	<ul style="list-style-type: none">・大豆の生育が不良な場合は使用を避ける。・重複散布を避ける。・他の茎葉処理剤（イネ科対象剤を含む）と混用しない。
パワーガイザー液剤	<ul style="list-style-type: none">・大豆本葉1葉期以降の処理は薬害程度が大きく、収量に影響はないが、生育量を抑制し、大豆による遮光効果が遅延する。

(3) 除草剤の畦間処理

土壌処理、茎葉処理で残草が多い場合は、畦間処理の除草剤が利用できる。ただし、大豆に薬剤が飛散しないよう、専用ノズル、カバー等を使用する。

(4) 中耕・培土

1回目：本葉2～3葉期 初生葉のつけ根まで軽く土寄せする。

2回目：本葉5～6葉期 第1本葉のつけ根まで土寄せする。

◆小 麦◆

1 病害虫防除

(1) うどんこ病、赤さび病

早期発見に努め、発生初期での防除に努める。薬剤は下葉にも付着するように散布する。

(2) 赤かび病

開花から10日程度の間感染しやすいため、防除は、開花始め～開花期に1回目、その7日後に2回目の薬剤散布を行う。

収量や品質の低下をもたらすばかりでなく、カビ毒（デオキシニバレノール）を含むため、赤かび粒が1万粒当たり5粒以上混入すると流通できなくなることから、本病に対する防除を徹底する。

2 収穫作業

(1) ネバリゴシ

出穂後46～50日、出穂後積算温度830～950℃、子実水分20～30%を目安とする。

(2) キタカミコムギ

出穂後51～55日、出穂後積算温度900～1,000℃、子実水分20～30%を目安とする。

穂発芽しやすいので、天候しだいでは水分30%での刈取りが必要になる。この場合は速やかに乾燥機に張り込み、水分25%までは送風温度を40℃以下（乾減率は毎時1.0%以下）にして品質低下を防ぐ。

りんご

良果を見極め、早期適正着果で高品質果実生産に努めよう！
腐らん病は見つけ次第、適切な処置を！

ふじ（板柳町五幾形）の落花日は平年より8日早い5月9日であった。摘果は果実形質を見極めながら進め、できるだけ早い仕上げで高品質果実の生産に努める。

■ りんごの生育ステージ 板柳町五幾形 (月/日)

品種名	区分	発芽日	展葉日	開花日	満開日	落花日
ふじ	本年	3/28	4/8	4/29	5/6	5/9
	平年	4/7	4/17	5/7	5/12	5/17
	前年	4/7	4/16	5/5	5/12	5/17
	平年比	10日早	9日早	8日早	6日早	8日早
つがる	本年	3/29	4/10	4/27	5/5	5/8
	平年	4/5	4/18	5/6	5/10	5/15
	前年	4/6	4/19	5/5	5/12	5/16
	平年比	7日早	8日早	9日早	5日早	7日早

ジョナ ゴールド	本年	3/27	4/ 6	4/28	5/ 4	5/ 9
	平年	4/ 4	4/14	5/ 5	5/10	5/15
	前年	4/ 5	4/16	5/ 5	5/10	5/16
	平年比	8日早	8日早	7日早	6日早	6日早
王 林	本年	3/27	4/ 6	4/27	5/ 3	5/ 6
	平年	4/ 5	4/15	5/ 4	5/ 9	5/15
	前年	4/ 6	4/16	5/ 4	5/ 9	5/14
	平年比	9日早	9日早	7日早	6日早	9日早

1 摘 果

摘果が遅れると、玉伸びや果実品質、次年産の花芽形成にも影響を及ぼすので「早く」「強く」を心がけ、早期適正着果に努める。

自園地の結実状況や果実の障害の程度を確認し、万が一、結実量不足が懸念される場合は、サビや変形のある果実も残して、標準着果量を確保する。

■ 標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)	着果率 (%)
紅玉	3頂芽に1果	33
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果	29
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星 シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・春明21 星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝	4頂芽に1果	25
北斗	4.5頂芽に1果	22
陸奥・世界一	5頂芽に1果	20

2 病虫害防除

薬剤散布に当たっては、散布間隔と基準散布量を守り、散布予定日に降雨が予想される場合は前倒しで散布する。

交信攪乱剤「コンフューザーR」の設置が終わっていない園地では、速やかに設置する。設置本数は10a当たり100本とし、園地に均一に設置する。

また、近年、発生が多く経過している腐らん病は、薬剤による防除に加え、病斑の適切な処置で感染拡大を防ぐ。

(1) 腐らん病対策

枝腐らんは、5～6月以降も発病してくるので、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

胴腐らんは、処置が不十分であったり、誤った処置が行われている園地もみられるので、再発病斑を含め、次のいずれかの処置を適切に行う。

ア トップジンMオイルペーストを使う場合は、病患部を削り取り、薬液の浸透性を高め

- るために周囲の健全な表皮（上下約5cm、左右2～3cm）を薄く削ってから塗る。
- イ フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、周辺健全部を含めて病患部の上下約5cm、左右2～3cmを紡錘形にかつ切断面が直角になるよう削り取ってから薬剤を広く噴射又は塗布する。
- ウ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を、病斑部よりも5～6cm広めに、3～5cmの厚さで貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのままにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。
- エ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。
 なお、処理方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルを参考にし、正しく実施する。



QRコード1：
 トップジンM
 オイルペースト



QRコード2：
 バッチレート



QRコード3：
 泥巻き法

(2) 黒星病対策

前年発生が見られなかった園地でも油断せず、自園地の状況を確認し、被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

特産果樹

◆ぶどう◆

スチューベンの開花は平年よりやや早い6月15日頃と予想される！
 摘梢は適期に行い、樹勢に応じた摘心を心がけよう！

スチューベン（鶴田町境）の展葉日は5月5日で、平年より4日早かった。

1 新梢の誘引・結束

薬剤や日光の通りを良くするため、新梢は随時角度や間隔を調整しながら架線に誘引し、結束する。

2 摘心（1回目）

1回目の摘心は開花7日前頃に行い、品種や樹勢に応じて強さを調整する。

品 種	摘心部	樹勢	副梢の取り扱い
スチューベン	第1花穂 上位5枚	強	①すべての副梢をかき取り、その後発生した先端の副梢を1本残す ②上位1本の副梢を残し、下位はかき取る ※①か②を選択する
		中	
		弱	上位2本の副梢を残し、下位はかき取る

シャインマスカット	第1花穂の 上位5枚	上位1本の副梢を残し、下位は1～2葉残して摘心する
キャンベル・アーリー	第1花穂の 上位3～4枚	上位2本の副梢を残し、下位はかき取る
サニールージュ	第1花穂の 上位5枚	上位1本の副梢を残し、下位はかき取る
ポートランド ナイアガラ	第1花穂の 上位4～5枚	上位2本の副梢を残し、下位はかき取る

3 花穂の整形

花穂整形時期は、開花5日前頃から1～2花咲き始める時が適期である。

スチューベン、ポートランド、ナイアガラでは、花穂の岐肩（通称：カタ）のみを除去する。

キャンベル・アーリーでは、花穂の岐肩、岐肩下の長い支梗や軸の間隔が広いものを除去し、さらに花穂の先端も軽く切り詰める。

シャインマスカットは、岐肩と上部支梗を除去し、花穂の先端3.5～4cmを残す。花穂整形器を利用するとハサミに比べて整形作業時間が短縮される。

4 シャインマスカットの無核栽培

シャインマスカットの無核栽培では無種子化を確実にするため、ストレプトマイシン処理を行ってからジベレリン及びフルメット処理を行う。

(1) ストレプトマイシン処理

満開予定日14日前～開花始期にストレプトマイシン200ppm溶液を花房に散布または浸漬する。

(2) ジベレリン及びフルメット処理

ア 無核3回処理の場合（ジベレリンは2回処理）

1回目は無種子化のために、満開時～満開3日後にジベレリン25ppm溶液に5ppmのフルメット液剤を加用した溶液に花房浸漬する。処理適期は、花穂先端まで花が咲ききったときである。

2回目は果粒肥大促進のために、満開10～15日後にジベレリン25ppm溶液に果房浸漬する。

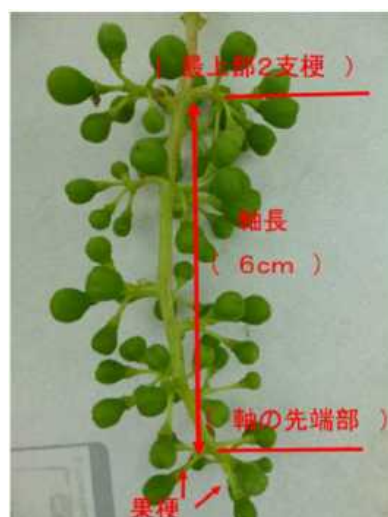
イ 無核2回処理の場合（ジベレリンは1回処理）

満開3～5日後（落花期）に、ジベレリン25ppm溶液に10ppmのフルメット液剤を加用した溶液を花房浸漬する。

5 シャインマスカットの予備摘粒

(1) 予備摘粒

無核3回処理の2回目（ジベレリン25ppm＋フルメット液剤5ppm）処理日から5～7日後頃に、果房の軸長を6cmに調整する。その際、果房の内側（軸の方向）に向いた果粒を優先して摘粒し、小粒や障害果も摘粒する。軸長は、最上部2支梗（できるだけ対になるように残す）の基部から先端部（果梗は含めない）までの長さを計測して調整する（右図）。



(2) 仕上げ摘粒

最上部2支梗の果粒は上向きも含めて各4～5粒残し、これ以下の支梗の果粒は果房形、果粒の配置を整えるため、外向きの果粒が等間隔となるように摘粒する。仕上げ摘粒により着粒数は35～40粒程度とする。

6 病虫害防除

■ 薬剤散布 【農薬はぶどう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。】

<スチューベン>

散布時期 (10a当たり散布量)	基準薬剤名と倍数			
	殺菌剤		殺虫剤	
開花10日前 6月上旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤	800倍	ベストガード水溶剤	1,000倍
	又はキノンドー水和剤40	600倍	又はアグロスリン水和剤	2,000倍
	又はチウラム剤※	1,000倍	又はアディオンフロアブル	1,500倍
	又はインダーフロアブル	8,000倍		
	又はオンリーワンフロアブル	2,000倍		
	又はバランティーフロアブル	8,000倍		
開花直前 6月中旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤	800倍	ベストガード水溶剤	1,000倍
	又はゲッター水和剤	1,500倍	又はパダンSG水溶剤	1,500倍
			又はジノテフラン剤※	2,000倍
落花直後 6月下旬 (250リットル)	ロブラール水和剤	1,500倍	アグロスリン水和剤	2,000倍
	又はアリエッティC水和剤	800倍	又はアディオンフロアブル	1,500倍
	又はスイッチ顆粒水和剤	2,000倍	又はジノテフラン剤※	2,000倍
	又はフルピカフロアブル	2,000倍		

※チウラム剤：チオノックフロアブル、トレノックスフロアブル

※ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

- 注) 1 灰色かび病の発生が多い園地では、開花直前にゲッター水和剤を選択する。
 2 ベと病の発生が多い園地では、開花10日前にアリエッティC水和剤又はキノンドー水和剤40、開花直前にアリエッティC水和剤を選択し、落花直後にランマンフロアブル2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。
 3 黒とう病の発生が多い園地では、開花直前、落花直後にアリエッティC水和剤を選択する。

<シャインマスカット（露地栽培）>

散布時期 (10a 当たり散布量)	基準薬剤名と倍数	
	殺菌剤	殺虫剤
新梢伸長期 (約30cm) 6月上旬 (200リットル)	ジマンダイセン水和剤 1,000倍 又はポリオキシシAL水和剤 500倍 又はチウラム剤※ 1,000倍 又はインダーフロアブル 8,000倍 又はオンリーワンフロアブル 2,000倍 又はベランティーフロアブル 8,000倍	
開花10日前 6月中旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤 800倍 又はキノンドー水和剤40 600倍	ベストガード水溶剤 1,000倍 又はパダンSG水溶剤 1,500倍 又はジノテフラン剤※ 2,000倍
開花直前 6月下旬 (250リットル)	アリエッティC水和剤 800倍 又はゲッター水和剤 1,500倍	アグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍 又はジノテフラン剤※ 2,000倍
落花直後 7月上旬 (250リットル)	ロブラール水和剤 1,500倍 又はアリエッティC水和剤 800倍 又はスイッチ顆粒水和剤 2,000倍 又はフルピカフロアブル 2,000倍	アグロスリン水和剤 2,000倍 又はアディオンフロアブル 1,500倍 又はジノテフラン剤※ 2,000倍

※チウラム剤：チオノックフロアブル、トレノックフロアブル

※ジノテフラン剤：スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤

- 注) 1 新梢伸長期に、灰色かび病の多発が懸念される場合は、ポリオキシシAL水和剤、チウラム剤、インダーフロアブル、オンリーワンフロアブル、ベランティーフロアブルのいずれかを選択し、新梢での被害を防止する。また、例年、灰色かび病の発生が多い園地では、開花直前にゲッター水和剤を選択する。
- 2 ベと病の発生が多い園地では、新梢伸長期（約30cm）にジマンダイセン水和剤又はチウラム剤、開花直前にアリエッティC水和剤を選択し、落花直後にランマンフロアブル 2,000倍又はライメイフロアブル4,000倍も使用する。
- 3 黒とう病の発生が多い園地では、新梢伸長期（約30cm）にジマンダイセン水和剤倍又はチウラム剤、インダーフロアブル、オンリーワンフロアブル、ベランティーフロアブルのいずれか、開花直前、落花直後にアリエッティCを選択する。
- 4 晩腐病の発生が多い園地では、落花直後にスイッチ顆粒水和剤を選択する。

◆おとう◆

適期管理と適期収穫で品質向上に努めよう！

佐藤錦（鶴田町菖蒲川）の満開日は5月1日で平年より3日早かった。

1 裂果防止対策

雨よけハウスの被覆は着色した果実が見え始めた頃に行い、裂果防止に努める。

2 着色管理

葉摘みは果実の着色がある程度進んだ頃（おおむね収穫予定の7～10日前頃）から行い、

果実に直接かぶさっている葉を軽く摘み取る。過度の葉摘みは果実品質を低下させたり、翌年の花芽の充実不足、樹勢の低下を招くおそれがあるので、**摘み取る量は最小限にとどめる。**

3 病害虫防除

■薬剤散布【農薬はおうとう園以外、他の作物、近隣の住宅等に飛散させない。】

散布時期 (10a 当たり散布量)	基準薬剤名と倍数			
	殺菌剤		殺虫剤	
満開35日後 6月上旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル	1,000倍	テルスターフロアブル	4,000倍
	又はファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	又はスピノシン剤	10,000倍
	又はナリアWDG	2,000倍		
	又はアンビルフロアブル	1,000倍		
	又はオンリーワンフロアブル	2,000倍		
収穫前 【佐藤錦】 6月中～下旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル	1,000倍	エクシレルSE	2,500倍
	又はナリアWDG	2,000倍	又はテッパン液剤	2,000倍
	又はインダーフロアブル	5,000倍		
	又は オリーワンフロアブル	2,000倍		
収穫前 【晩生種】 7月上旬 (500リットル)	アミスター10フロアブル	1,000倍	テルスターフロアブル	4,000倍
	又はナリアWDG	2,000倍	又はスピノシン剤	10,000倍

※スピノシン剤：ディアナWDG、デリゲートWDG

- 注) 1 満開 35 日後頃に、紅さやかななどの早生種に散布する場合、収穫前日数に注意して薬剤を選択する。
- 2 カメムシ類対策では、満開 35 日後及び晩生種の収穫前に発生がみられた場合は、テルスターフロアブルを選択する。
- 3 アンビルフロアブル、オンリーワンフロアブル、インダーフロアブルは、薬剤耐性の懸念があるので連続使用しない。
- 4 アミスター10フロアブル、ファンタジスタ顆粒水和剤、ナリアWDGは、薬剤耐性の懸念があるので、合わせて年2回以内の使用とする。ただし、アミスター10フロアブルとファンタジスタ顆粒水和剤は連続使用しない。

4 収穫

収穫は満開日からの日数が目安になるが、天候によっては早まることもあるので、品種の特性（着色、大きさ、形状、食味など）を重視し、成熟したものから順次、数回にわたって行う。

■各品種の収穫期の目安

品 種	満開日から収穫日までの日数
紅さやか	40～50日
佐藤錦	50～55日
ジュノハート	55～60日
紅秀峰	60～70日
サミット	60～65日
南陽	60～65日

野菜

こまめな温度管理や草勢に応じた肥培管理、適期防除を行いましょう！

◆トマト◆

1 温度管理

- (1) 昼間の好天時は高温障害が発生しないよう、サイド換気や肩換気などで生長点から上の部分を換気する。
- (2) 気温が低い日や夜間はサイドを閉め、保温に努めるが、最低気温が14℃以上になれば、夜間もサイドを開放する。

2 着果促進

- (1) 1～4段花房は4番花開花始め、5段花房以降は3～4番花開花始めにトマトトーン処理をする。処理はなるべく気温が高温にならない午前中の時間帯に行う。

3 かん水・追肥

- (1) 本格的なかん水・追肥は、1本仕立て苗は3段花房の開花始めから、2本仕立て苗は2段花房の開花始めから行う。
- (2) かん水量は1株当たり1.5リットルを基準とし、28℃以上の気温が予想される日は1株当たり2リットルとする。30℃以上の高温が予想される日は、昼から午後2時頃までに1株当たり1リットルを追加かん水する。
- (3) 2本仕立て苗の場合、1株当たりのかん水量は1本仕立て苗の2倍量とする。
- (4) かん水の間隔は天候状態をみながら、毎日～2日おきで調整する。
- (5) 1回当たりの追肥量は、窒素成分0.5kg/10a以内とする。10日間の窒素成分の合計は1.5～2.5kg/10aを目安とするが、天候や草勢に応じて調整する。

<かん水と追肥量の目安> ()は2本仕立て苗

月	旬	かん水量/1株当	かん水間隔	10日間の窒素成分合計
6	上	1.5 ^{リットル} (3.0 ^{リットル})	1～2日おき	1.5～2.0kg/10a
	中～下	1.5～2.0 ^{リットル} (3.0～4.0 ^{リットル})	毎日～1日おき	2.0～2.5kg/10a

※りんか409はかん水量は1割程度多くする。

4 摘果

- (1) 摘果時期と着果数は1段花房の着果節位で変える。着果節位が5～6節の上の場合は2段開花始めに2果、7・8節の上の場合は3段開花直前に3果となるよう摘果する。
- (2) りんか409は着果性がよいため、成らせすぎに注意する。

5 葉面散布

- (1) 草勢の維持（葉先枯れ、ガク枯れ、着果不良軽減）のため、3段開花以降、メリット黄400倍を各段2～3日おきに2回、開花花房を中心に葉面散布する。

6 病虫害防除

- (1) 灰色かび病が発生しやすくなるので、葉先枯れ部分や花カスをできるだけ取り除き、

ハウス内の換気や薬剤による予防散布を行う。

- (2) アザミウマ類の発生が多くなるので、ほ場周辺の除草を行い、発生状況に応じて早期に防除を行う。
- (3) トマトキバガの発生に注意し、葉や果実に食害が認められた場合、速やかに防除を行う。
- (4) りんか409は青枯病に耐病性がないため、わき芽かき、摘葉、誘引作業等の傷口から感染しないように注意し、ハサミ等の使用の際はこまめに消毒しながら作業を行う。

◆メロン◆

1 温度管理

定植後は最高気温28～30℃、開花期は最低気温12～15℃を目安に、トンネルの開閉などでこまめな温度管理を行う。特に夜間の閉めきりは軟弱徒長となり、病害虫の発生の原因となるので、こまめな開閉を心がける。(外気の最低気温15℃以上なら夜間も開放)

2 かん水

開花期のかん水は、湿度の上昇により花粉が出にくくなるので控える。

着果確認後(鶏卵大の頃)から着果2週間後頃までかん水を行う。1回の量は、株当たり4リットルが目安となるが、土壌の水分によって加減する。
草勢(つる先の立ち上がり、葉色、孫づるの伸長)を見て、液肥や葉面散布を行う。

3 摘心と整枝

(1) 結果枝(孫づる)の摘心

- ア 弱勢の場合 着果節位を1～2節上げ、着果確認後に、孫づるの葉を1枚残して、摘心する。
- イ 適勢の場合 開花前後に孫づるの葉を1枚残して摘心する。
- ウ 強勢の場合 開花予定日の3～4日前に孫づるの葉を1枚残して摘心する。

(2) 結果枝以外の整枝

22～23節で子づるを摘心する。15～20節の孫づるを除去する。

整枝は着果後10日までに終了し、風通しを良くし、ネットの形成を促進する。

果実肥大期は、受光体勢を維持するため、茎・葉を動かさないようにする。

花き

適正な温度管理により高品質な花きの生産に努めよう！

◆キク◆

1 定植前後の管理

採穂に当たっては、病害虫に侵されておらず、太さが揃い充実したものを選択し、定植2週間前から挿し芽を行う。10月出荷の作型は、6月上旬～7月上旬に定植できるように作業を進める。

挿し芽後は十分かん水する。6月以降の日射が強い時期は、発根するまで遮光率50%程度の資材で被覆して日中のしおれを防ぐ。

定植後の管理について、花芽分化期までにはいかに草丈を伸ばすかが、良品質切り花生産にとって重要であるので、定植後40日くらいは十分にかん水する。なお、温度は、日中25℃、夜間15℃を目標に管理する。

2 病害虫防除

白さび病、アブラムシ類、アザミウマ類及びハモグリバエ類が発生しやすい時期なので、過湿や多肥を避け、早期発見・早期防除に努める。また、ヤガ類の侵入を防ぐため、ハウスのサイドや出入口等に目の大きさが4mm以下の防虫ネットを早めに設置する。

◆トルコギキョウ◆

1 定植作業

10月出荷の作型では、6月下旬頃までに定植する。老化苗は生育が劣るので、本葉が4枚展開までのものを使用する。

高温時の定植では、定植1週間前から遮光率40%程度の遮光資材を用いて地温を下げおき、活着を確認したら曇天または夕方に被覆資材を除去する。

定植は深植えとせず、株元を強く押さえないようにする。

2 定植後の管理

活着後は徐々にかん水の間隔をあげ、根を深く張らせるようにする。

気温25℃以上が続くと生育の停滞やロゼットの要因となるので、遮光や換気等で温度管理を徹底し、日中の気温が25℃以上になった場合は夜間もハウスを十分に開放し、夜温を15℃以下にする。

地際から5節（草丈15cm）くらいまでの側枝は早めに摘み取り、主茎の生育を促す。

3 病害虫防除

灰色カビ病、斑点病の重点防除時期なので、循環扇の活用や換気等で通風を図り、雨が数日続く場合は殺菌剤を散布する。また、アブラムシ類、アザミウマ類及びハモグリバエ類の早期発見・早期防除に努める。ヤガ類の侵入を防ぐため、ハウスのサイドや出入口等に目の大きさが4mm以下の防虫ネットを早めに設置する。

《ツキノワグマ出没警報発令中！！（4月20日～11月30日）》

農作業は、1人での作業を避け、「ラジオやクマよけスプレーを携帯する」、「食べ物や空の容器はすぐに片付ける」、「農作業残渣は適正に処理する」など、人身被害の防止に努めましょう。

農作業中の熱中症に注意しましょう

～熱中症は適切な予防をすれば防ぐことができます～

- 暑さの感じ方は人によって異なります！高齢の方は特に注意が必要です。
- まわりが協力して、熱中症予防を呼びかけ合うことが大切です。
- 天候の変化が激しい時期ですが、高温が予想される日は、熱中症予防を忘れないようにご注意ください。

登録品種に関する注意喚起

- 登録品種の種苗・収穫物等を利用するには、原則として権利者の許可が必要です。
 - ・育成権者の許可を得ずに、自家採取した登録品種の種苗を近所の農家等に配布することは種苗法に違反します。
 - ・他都道府県で開発された品種によっては、作付けできる都道府県が限定されている場合があります。
- 登録品種かどうかの確認は品種登録ホームページ (<http://www.hinshu2.maff.go.jp>) で行い、正規のルートで種苗を入手しましょう。
- 育成権者を侵害すると民事請求を受けたり、刑事罰を科される場合があります。



《6～8月は「農薬危害防止運動」実施期間です》

農薬の適正使用と隣接農地への飛散防止に十分気をつけましょう

- 使用し残った農薬などは、河川等へ絶対捨てないでください。
- 農薬を使用する場合には、必ず最新の「農薬登録情報」を確認してください。
- 農薬は鍵のかかる専用の場所に保管し、管理を徹底しましょう。

《山火事防止運動強調期間実施中 4月1日～6月10日》

春は空気が乾燥し、火災が発生しやすい時期です。剪定した枝等をやむを得ず園地で焼却する場合、山火事など火災の発生防止を徹底してください。